

小児肺炎球菌

★病気の説明

肺炎球菌がひきおこす主な感染症には、肺炎に加えて、通常無菌である脳の髄液や血液から肺炎球菌が検出される細菌性髄膜炎、菌血症などの重い全身性の感染症や中耳炎、副鼻腔炎などの気道感染症があります。特に肺炎球菌による子どもの細菌性髄膜炎は、初期症状が風邪に似ているため判別が難しく、嘔吐、けいれんや意識障害を伴うことがあります。重い後遺症が残ったり、死亡に至ることもあります。

★予防接種の受け方

- ・接種対象年齢：生後2か月～5歳未満
- ・接種する回数と間隔 ※接種開始年齢(月齢)で接種回数が異なります。

	接種開始月齢	接種回数等
標準	生後2～7か月未満まで	【合計4回】 初回：27日以上の間隔で3回接種 (生後12か月までに完了) 追加：初回(3回)終了後、60日以上の間隔をおいた後であって、生後12か月に至った日以降に1回接種(標準は生後12～15か月の間)
標準以外	生後7か月～1歳未満まで	【合計3回】 初回：27日以上の間隔で2回接種 (生後12か月までに完了) 追加：初回(2回)終了後、60日以上の間隔で、生後12か月を過ぎてから1回接種
	生後1歳以上～2歳未満	60日以上の間隔で2回接種
	生後2歳以上～5歳未満	1回接種

出典(病気の説明)：よぼうせっしゅのはなし(2024年)抜粋 日本ワクチン産業協会

